

## 地域住民を対象とした自記式問診票と唾液潜血検査の関連

○土田静花, 松田睦美, 千葉靖子, 大友良彦, 安部優香  
佐藤美由紀, 高嶋亜希子, 川合尚子, 加藤裕一, 加藤丈夫  
(山形市保健所シンクタンクチーム)

【背景・目的】従来歯周病検診の際には歯科医師による口腔内診査が必要であるが、唾液潜血検査により簡便にかつ高い精度で歯周病の予測ができることが報告されている（大島ら, 2001）。そこで、さらに簡便で安価な歯周病検診を実施するために、唾液潜血検査の結果と自記式問診票の関連について分析し自記式問診票の結果から唾液潜血検査の結果を推測できるか否かを検討した。

【対象・方法】対象者：平成 30 年度に 20 歳以上の山形市民 997 名に参加を呼びかけ、470 名が参加した（参加率 47.1%）。参加者内訳：男性 90 名, 女性 380 名, 平均年齢 67.8 歳（29 歳–88 歳）。検査方法：ペリオスクリーン®（サンスター）を用いた唾液潜血検査, 自記式問診票の記入。統計解析：唾液潜血検査と自記式問診票（10 項目）の関連について統計ソフト R/EZR を用いて分析した。 $P<0.05$  を統計学的に有意とした。

【結果】対象者 470 名のうち陽性者は 289 名（陽性率 61.5%）。

①唾液潜血検査結果と自記式問診票の該当数（0~10）の関連については、唾液潜血検査の陽性者は陰性者に比べて該当数が有意に多かった（マン・ホイットニー-U 検定  $P=0.00000236$ ）。また問診項目該当数と陽性率を比較したところ、該当数が多くなるにつれて有意に陽性率が上昇していた（Cochran-Armitage 傾向検定  $P=0.00000176$ ）（図 1）。

②唾液潜血検査と自記式問診票の項目との関連について、ロジスティック回帰分析を行ったところ、唾液潜血検査の結果に独立して関連があると推測されたのは項目 1（歯を磨くと歯ブラシに血がつく）（ $P=0.00853$ ）、項目 4（口臭が気になる）（ $P=0.02220$ ）、項目 6（歯と歯の間に食片がよくはさまる）（ $P=0.00409$ ）であった（表 1）。また、項目 1, 4, 6 全てに該当した場合、陽性率が 87.5%となり、全体の陽性率 61.5%より高かった。

図 1 自記式問診票該当数と唾液潜血検査陽性率

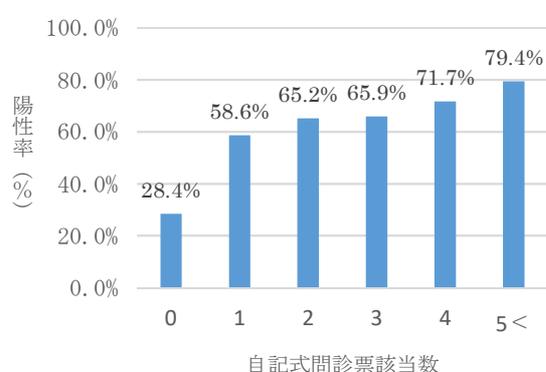


表 1 唾液潜血検査と自記式問診票の項目との関連

項目	オッズ比	P 値	ロジスティック回帰分析
			(95%信頼区間)
項目 1	2.850	0.00853	(1.31-6.22)
項目 2	1.580	0.22900	(0.75-3.32)
項目 3	1.230	0.45000	(0.721-2.09)
項目 4	1.700	0.02220	(1.08-2.68)
項目 5	2.230	0.05890	(0.97-5.1)
項目 6	1.850	0.00409	(1.21-2.8)
項目 7	0.846	0.47900	(0.533-1.34)
項目 8	1.170	0.49200	(0.748-1.83)
項目 9	0.779	0.75600	(0.162-3.76)
項目 10	0.839	0.49200	(0.509-1.38)

【結論】自記式問診票の該当数が多くなるほど唾液潜血検査の陽性率が有意に上昇した。問診項目 1, 4, 6 に該当した人の唾液潜血検査陽性率は 87.5%であり、歯周病あるいは予備軍の可能性が示唆された。

▶R元年度

第46回山形県公衆衛生学会発表(歯周病に関すること)のまとめ

テーマ	地域住民を対象とした自記式問診票と唾液潜血検査の関連
内容	簡便で安価な歯周病検診を探索することを目的として、唾液潜血検査を受診した市民470名の唾液潜血検査の結果と自記式問診票の関連について分析し、自記式問診票の結果から唾液潜血検査の結果を予測できるか否かを検討した。
結果	自記式問診票の該当数が多くなるほど唾液潜血検査の陽性率が有意に上昇し、特に検査結果と関連がある問診項目があることがわかった。

《分析結果の詳細》

- ・唾液潜血検査陽性者は陰性者に比べ自記式問診票の該当数が有意に多かった。また、該当数が多くなるにつれて有意に陽性率が上昇した。
- ・唾液潜血検査結果と独立して関連があると推測される問診項目があり、その項目全てに該当した場合の陽性率は全体の陽性率より高かった。